

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	浜松市立中郡中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	「自分に誇りをもてる生徒の育成」の実現に向けて

「活動・研究の意義および活動報告」

1. 活動に至る経緯

本校に校長として赴任して4年目となり、今年度役職定年を迎える。赴任した年に、学校教育目標を「自分に誇りをもてる生徒の育成」とし、生徒の自己肯定感・自己効力感を高める教育を推進してきた。

1年目は、「キャリア教育」に重点を置き、法政大学キャリアデザイン学部教授児美川孝一郎氏をお招きして、校内研修の充実を図った。静岡放送局プロデューサー、ジュビロ磐田のプロサッカー選手、ラジオパーソナリティなど様々なジャンルの方の講話を計画し、生徒のキャリアプランニング能力の育成に努めた。

2年目は、新学習指導要領の完全実施を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の推進に注力した。

3年目は、「学校マネジメント」を中心に研修を進めた。横浜国立大学名誉教授高木展郎氏を招へいし、校区の幼少中の職員がカリキュラム・マネジメントや学校評価について研修した。京都教育大学附属桃山中学校の研究会や佐賀教育大学附属中学の研究会に参加させ、佐藤学氏や澤井陽介氏の講演の内容を職員で共有した。

2. 活動・研究の目的(ねらい)

3年の研究の積み重ねの結果、学校評価の資料となる生徒のアンケートの数値は徐々に向上し、成果も出ている半面、課題も多い。不登校生徒の対応をするために今年度設置された「校内適応指導教室」の効果的な活用や、浜松市「いじめ重大事態」に認定されている生徒の入学、LGBTQを含めた人権に配慮した制服の導入などである。これらの学校教育目標の実現につながる課題の解決を図りたい。「キャリア教育」や「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」などの研修を通して、不登校やいじめの対応について理解を深め、全生徒が少しでも「自分に誇りがもてる」環境を築く。

3. 活動内容

① 「自分に誇りをもつ生徒の育成」のためのカリキュラム・マネジメント

本年度の校内研修テーマを『自分に誇りをもてる授業の創造～「主体的・対話的で深い学び」を通して』とし、学校教育目標実現に向け全校で取り組んだ。グランドデザインの「知・徳・体」の3つの項目は、全職員で意見を出し合い、それぞれを資質・能力の3つの柱である「知識及び理解」「思考・判断・表現」「学びに向かう力」に整理した。グランドデザインには学校評価で行う評価項目と期待する数値を記載し、学校評価と連動できるよう工夫した。道徳や総合的な学習の時間、学習指導、生徒指導、特別活動などすべての全体計画をグランドデザインの形式で統一し、常に学校教育目標が意識できるものとなった。これらの取組は、田村学氏の『深い学び』などの書籍、NITSの動画などが大いに参考になった。田村氏が講師を務める「京都市立下京中学校」の研究発表会にも参加し、研修を深めた。また、2月20日の学校運営協議会には、鳴門教育大学大学院教授久我直人氏をお招きし、地域とともにある学校づくりのためのカリキュラム・マネジメントについて御指導いただき、地域の方々と職員でワークショップ型の研修を行った。この取組は地域の方々にも好評で、来年度も継続して行う予定である。



【久我直人氏とのCS】

② 「自分に誇りをもつ生徒の育成」のための授業改善と評価

本年度、指導案を「単元構想案」に変え、単元の中に生徒が生き生きと表現できる山場を位置付けた。「パフォーマンス評価」を行うためである。この取組は、昨年度校内研修でお世話になった高木展郎氏の『評価が変わる授業を変える』等の書籍を参考にした。澤井陽介氏の『できる評価続けられる評価』や石井英真氏の『ヤマ場をおさえる学習評価』も大いに役立った。石井氏が研究委員となっている「京都教育大学附属小中学校」の研究

を発表会に参加した。来年度の校内研修にも生かしていきたい。

ICTの活用についても研修を進めた。昨年度全国学力学習状況調査の質問紙の「タブレット機器をどの程度利用したか」という項目に「週3回以上」と回答した3年生は30.2%と、全国、県平均の半分以下であった。品川で行われた「NEXT GIGA フォーラム」に参加して全国の最新動向について学んだり、『学び続ける力と問題解決』等の高橋純氏の著作を参考にしたりした。

③ 「自分に誇りをもつ生徒の育成」のための発達支援教育

浜松市は長年、「発達支援の教育理念を根幹に据えた教育」を推進してきた。夏休み中の校内研修において、明治大学教授諸富祥彦氏を講師に迎えて「発達支援教育」をテーマに終日研修を行った。校区の幼稚園や小学校の職員も多数参加し、充実した研修となった。特に「不登校」「いじめ」について校区で共通理解できたことは大きかった。

④ 「自分に誇りをもつ生徒の育成」のための働き方改革

職員が生き生きと働ける環境でなければ、生徒の自己肯定感は育まれないと考え、教育評論家の妹尾昌俊氏を招き、働き方改革を推進した。来年度は、浜松で一番早い時刻に部活動が始まり、一番早く終了する学校となる。部活動の地域移行に関する書籍も多数購入した。

⑤ 「自分に誇りをもつ生徒の育成」のための「学校のきまり」の見直し

来年度からの新制服の導入を見据え、靴や服装など「学校のきまり」の見直しを図った。男女同じ制服にするといった安易な取組ではなく、個性の尊重やLGBTQなどの人権について、生徒に考えさせる機会とした。生徒主体で取り組むために、『校則が変わる、生徒が変わる、学校が変わる』等の苦野一徳氏の書籍や『子どもたちに民主主義を教えよう』等の工藤勇一氏の書籍を参考にした。

⑥ 「自分に誇りをもつ生徒の育成」のためのキャリア講話

作家の「いぬじゅん」氏の講演を、6月12日に行った。演題は『今を生きる君へ』である。また、1月15日には、静岡ブルーレヴズ社長の山谷拓志氏に、『プロスポーツ選手に学ぶモチベーションの高め方』という演題で講演をいただいた。職場体験等では学ぶことのできない個人事業や会社経営について、文科系・体育会系の2つの視点から学ぶことができ、生徒にとって、たいへん貴重な時間となった。



【妹尾昌俊氏との研修】



【いぬじゅん氏の講演会】



【山谷拓志氏の講演会】

4. 子供たちへの効果(成果・課題)

本研究の結果、生徒が安定した生活を送れるようになり、さわやかな挨拶が響く学校となった。来客の方から、「挨拶が素敵な学校ですね」「本当に気持ちの良い学校ですね」とお褒めの言葉をいただくことも多い。学校評価の資料となる生徒のアンケートの「友達や先生や地域の人に自ら進んで挨拶ができていますか」という質問に、92%の生徒が「とてもそう思う」もしくは「そう思う」と答え、「思わない」と答えた生徒は0%である。

生徒アンケートの主な結果

項目	とてもそう思う	そう思う
友達や先生や地域の人に自ら進んで挨拶ができていますか	56%	36%
自分に誇りを持ち、学校生活に感動をもって挑戦することができていますか。	23%	58%
思いやりや優しさをもって、周囲の人と接することができていますか。	37%	57%
自分の目標に向かって、様々なことにあきらめず粘り強く取り組むことができていますか。	29%	53%
先生はあなたや保護者の話を親身になって聞いてくれていますか。	44%	50%
先生はあなたを励まし、頑張りを認めてくれていますか。	41%	55%
先生は、生徒の学力を伸ばす努力をしてくれていますか。	49%	44%

生徒アンケートの結果は上記のとおりである。「先生はあなたや保護者の話を親身になって聞いてくれていますか」「先生はあなたを励まし、頑張りを認めてくれていますか」「先生は、生徒の学力を伸ばす努力をしてくれていますか」の3つの項目は、いずれも9割以上の生徒が肯定的な回答をしており、学校と生徒が良好な関係であることの証左と考えられる。その他の項目も、概ね良好な数値であり、本研究の成果と言えよう。

しかし、課題もまだ多い。不登校生徒は激減したが、1、2年生の5%弱の者が学校に来られていない。その中には、小学校の時の「いじめ」で不登校になった生徒もいる。誰もが安全、安心に学校生活を送り、「自分に誇りをもてる」学校づくりを継続して行っていきたい。